

平成24年度採択 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

「地域産業界連携教育力改革プロジェクト」

平成25年度 成果報告書

平成24年度採択 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
「地域産業界連携教育力改革プロジェクト」

平成25年度 成果報告書

地域産業界連携教育力改革プロジェクトの概要

1

ご挨拶

事業推進代表者 学長 1

事業推進責任者 情報ビジネス学部長 1

事業グループ活動報告

4つの教育事業

メンタルタフネス講座グループ活動報告 2

自己理解促進プログラムグループ活動報告 2

地域企業連携プロジェクトグループ活動報告 3

3者間協働インターンシップグループ活動報告 4

教育体制・産業界ニーズ把握体制整備

連携事業推進グループ活動報告 4

教育体制・産業界ニーズ把握体制の後方支援

ユビキタスキャンパスグループ活動報告 5

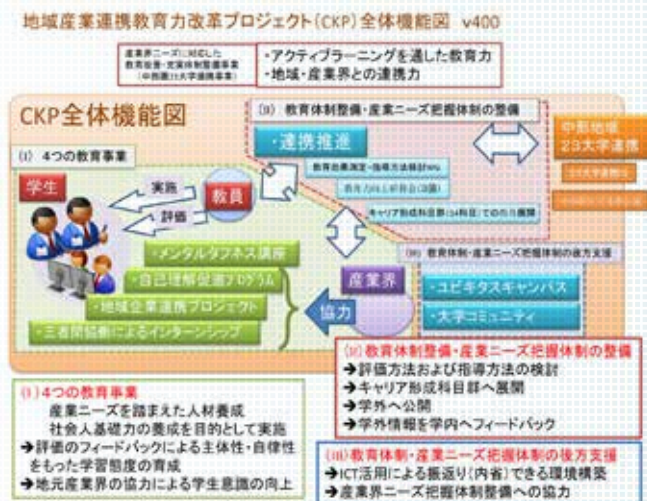
大学コミュニティグループ活動報告 5

地域産業界連携教育力改革プロジェクトの概要

豊橋創造大学および豊橋創造大学短期大学部では、文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備補助事業」に対して中部圏23大学共同事業として申請し、H24年から3カ年事業として採択された。豊橋創造大学並びに短期大学部では、産業界ニーズ補助事業への参加にあたって、社会人基礎力を育成すべき資質として、その教育体制および産業ニーズ把握方策について検討し、「地域産業界連携教育力改革プロジェクト」(以下、CKPと呼ぶ)として、教育体制整備・産業ニーズ把握体制の整備を推進することになった。産業界ニーズを把握して、社会人基礎力を養成できる教育システムとして以下事業実施の体制整備を行い、教育展開する。

- (I) 4つの教育事業
- (II) 教育体制整備・産業ニーズ把握体制の整備
- (III) 教育体制・産業ニーズ把握体制の後方支援

【参考】中部圏23大学共同事業 <http://s-needs-chubu.pj.mie-u.ac.jp/> 豊橋創造大学CKP事業 <http://project.sozo.ac.jp/portal/>



ご挨拶

事業推進代表者



学長 伊藤晴康

地域と連携した実践的な教育プログラム

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部は、藤ノ花学園の実践的教育の伝統を現代に活かし、創造性豊かで人間味あふれる次世代社会の担い手を育成することを目標としている。

設立当初よりインターンシップや地域の企業人による特別講義の実施等、地域社会との密接な連携の下に教育に取り組んできた。「地域産業界連携教育力改革プロジェクト」においては、就職に際

して様々な困難に直面する学生の精神的な強さを育むと共に、IT技術を活用しながら地域社会との緊密な連携の上に実社会での問題解決を教育に取り入れ、多くの実績を残した。

地域の将来担う、たくましい若者の育成のための実践的教育プログラムとして、本取組が参考になれば幸いである。

事業推進責任者



情報ビジネス学部学部長 佐藤勝尚

プロジェクト活動と職業

教育と職業との関係を考えてとき、学力より性格が職業人生に大きな影響を与えるという(シカゴ大学: James Joseph Heckman)。その中で、もっとも関係の強いものは、他人と上手にやる、根気よく仕事に取り組む、仕事を怠けないなどの個人的形質(性質や特徴)であるという。これらの個人的形質は、遺伝的なもので、かえがたいものと考えがちであるが、そうではなく学ぶことが

でき、変えられ、向上が可能なものである。その、学び、変える、向上の方法は、かつての徒弟制度のように、親方と若者が信頼関係を結びながら指導や助言を受けて仕事を通して学んでいくことであった。学生諸君がこれまで取り組んできたプロジェクト活動は、このような徒弟制度的教育とも言えるもので、プロジェクトの終わりのこの時期に、これら個人的形質がどれだけ向上させたかを、振り返って考えることを強く求める。

事業グループ活動報告

4つの教育事業

メンタルタフネス講座グループ活動報告

グループ事業の取組

メンタルタフネス講座は、ストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に対応するため、セルフモチベーション、リーダーシップ、目標設定・目標達成などの理論的背景と実践的演習を組み合わせることで学生自身の経験知を高める教育プログラムである。2年生3月に第1回ベーシック講座(平成24年度事業で実施済み)、3年生の6月に第2回セルフモチベーション講座、7月に第3回メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座の計3回の講座を実施した。

活動成果

メンタルタフネス育成講座では、自己のメンタルタフネス、セルフモチベーションから初めて、仕事理解と企業研究、自己分析と就職活動というような内容で実施した。全3回の講座を受講した学生からは、「就職内定までの道のりは長い、ストレスと上手く付き合いながら乗り切りたい」、「自分の事なのに自分では気づかないような発見があり、就職活動では自己分析がいかに大切なのかがよくわかった」等の感想が寄せられている。

今後の課題点

アンケート評価の概略からは、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスへの意識付けも出来ていると考えられる。内容や講座の分かりやすさに対して、講座全体の満足度や各種のワークの値が低い傾向がみられる事、第1回おもしろ村のような相互作用関連やボードゲーム関連は評価が高い様子である事などを考慮し各回のワークなどについては改善を行う必要がある。また、2月の自己理解促進講座と連携し、学生の関心と行動をスムーズにつなげるようにする。



セルフモチベーション講座の様子



ビジネス研究講座の様子

2 自己理解促進プログラムグループ活動報告

グループ事業の取組

自己理解促進のための模擬面接講座(自己理解促進講座)は、学生が面接者と面接官の両者、特に通常経験することの出来ない面接官の役割をオブザーバーとして体験させ、企業側のニーズを理解させ、自己理解を深め、自らの職業観を形成させる。学生は、他学生の良い点や改善点を自分の立場に照らし合わせて学んでいく。PROGを導入し、自らが持つ現時点でのジェネリックスキルを理解させるとともに、受講前後の学生の成長度を把握させるようにした。

活動成果

自己理解促進のための模擬面接講座では、1日目に基本的な学び、2日目に集団面接および個人面接のワークにより具体的に体験する。併せて、協力企業担当者からの助言により、企業の人事の視点からどのような学生が求められ、何が評価の対象となるのかについて、企業側のニーズの理解と、自己の職業観など自己理解を深めさせることが出来た。また、学生は、他学生の良い点や改善点を自分の立場に照らし合わせて学び、自己理解および内省をさせることが出来た。

今後の課題点

今後の課題は、次年度からの協力企業担当者との協働体制の整備と実施内容及び時間配分等についての検討である。自己理解促進のための模擬面接講座については、実施内容、計画についての検討と共にスケジュールについてもメンタルタフネス育成講座から始まり自己理解促進講座、PROGによる測定とフィードバックにより、学生の関心と行動をスムーズにつなげる事が出来るよう十分に実施内容の検討、内外に対する講座の意味付けの周知等について徹底するよう留意したい。



3 地域企業連携プロジェクトグループ活動報告

グループ事業の取組

プロジェクト活動を通して、社会から求められる人材育成を行う。その中で学生が自ら行動して就業力すなわち社会人基礎力を学修することを目的としている。育成すべき資質に関する行動規範に基づき指導教員並びに連携企業の担当者から適宜助言や指導を与える。事業中間の9月と事業終了後の1月に社会人基礎力シートを用いて、自己評価、教員評価、メンバー間相互評価を行い、学生本人にフィードバックする。プロジェクト活動における行動に対して、助言や支援を行うことにより、改善項目を容易に理解できる教育体制になっている。

活動成果

参加学生の社会人基礎力育成の観点における成果：地域産業界と連携したプロジェクトとして平成24年度は11テーマ、平成25年度は8テーマのプロジェクト活動を計画、実施した。その活動において学生が主体的、自律的、協動的にグループで行動して、テーマの決定、行動計画、作業の実施、進捗管理を行った。これらをグループの協議を通して決定するなど、グループ活動の運営の経験を積むとともに、これらを効率的に進めるために必要な能力や行動について認識を深めた。教員の助言、支援体制についての考察も行い実施体制の整備を進めた。2回評価結果から育成すべき資質向上への効果が示唆された。

今後の課題点

地域連携協働プロジェクトの実施においては、テーマの決定、協働企業の選定、協力体制の構築など、通常の講義とは異なった指導環境の構築が必要である。また、活動に伴う指導を適切に行う必要がある。平成25年度の実施によって教育体制や評価方法の整備を行い、効果的な教育方法の探求を進めた。今後は、この検討事項を次年度運営時に活用することが今後の課題である。

プロジェクトテーマ一覧

<p>PB競争時代における地域スーパーの生き残り戦略</p> <p>担当教員:石田 宏之 協力:(株)サンヨネ・豊橋農協及び高橋農園</p> 	<p>携帯端末向けアプリ作成</p> <p>担当教員:今井 正文 協力:株式会社SRA名古屋事業所 株式会社アイエスエル小坂井高校</p> 
<p>SOZOショップ コラボプロジェクト 実社会の組織や企業とコラボしてイベントを果敢に実施</p> <p>担当教員:川戸 和英 協力:NPO団体「ハルク」ほの国百貨店 松山小学校</p> 	<p>豊橋エコタウンプロジェクト ～豊橋市内小中学校に設置された太陽光発電システムの状況調査～</p> <p>担当教員:見目 喜重 協力:豊橋教育委員会教育政策課 豊橋市内各小中学校の校務主任</p> 
<p>アカウミガメの保護活動</p> <p>担当教員:中野 聡 協力:豊橋市役所環境部環境保全課</p> 	<p>高校生と学ぶ会計学☆シ</p> <p>担当教員:野口 倫央 協力:藤ノ花女子高校・犬山高校(商業科)</p> 
<p>トヨハシ♡(ハート)ヨシプロジェクト</p> <p>担当教員:三好 哲也 協力:豊橋観光コンベンション協会・豊橋市企画部政策企画課・産業界観光振興課 豊橋鉄道 穂の国とよはし芸術劇場PLAT・豊橋生菓子組合事業委員会</p> 	<p>We ♡ NONHOI ~のんほいパーク盛り上げ隊~</p> <p>担当教員:三輪 多恵子・山口 満 協力:豊橋総合動植物公園(愛称のんほいパーク)公益財団法人豊橋みどりの協会 豊橋市役所企画部シニアPMーション推進室NPO法人ワライフ</p> 



4 3者間協働インターンシップグループ活動報告

グループ事業の取組

本年度は情報ビジネス学部3年生7名が、5企業・事業所のインターンシップに参加した。

6・7月の実習前指導では、実習先のマッチング・自己紹介書の作成指導を行った。8・9月には各自が配属先企業にて1～2週間の実習を行った。

実習終了後、10月には報告会(写真上)にて実習日程・内容を報告し、またその内容をまとめた報告書を作成した。また、報告会終了後には実習先企業との座談会(写真下)を実施し、企業・事業所から学生の实習状況、今後の課題などについて意見を頂いた。

活動成果

従前の学生の実習状況評価や座談会による学生に対する企業ニーズの把握に加えて、新たに社会人基礎力レベル評価表の記入を実習先企業に依頼し、その詳細な把握に努めた。その結果、学生に対して多くの実習先企業から主体性、実行力、課題発見力の強化を望む声が聞かれた。一方で、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性については、概ね高い評価が与えられていた。このように、今年度は学生の社会人基礎力に対する産業界ニーズをより詳細に把握することができた。

今後の課題点

社会人基礎力レベルの評価から、産業界が学生に対して主体性、実行力、課題発見力の強化を強く望んでいることが示された。今後、インターンシップ実習前の指導の中に、これらの力を引き上げるような方策を織り込む必要がある。

また、学生の主体性を育むという観点からは、2年次学生のインターンシップへの参加を促すことも必要である。そのためには、1年次学生に対してインターンシップへの興味を喚起する機会を新たに設けることを検討する必要がある。



インターンシップ報告会の実施風景



インターンシップ座談会の実施風景

2 教育体制・産業界ニーズ把握体制整備

連携事業推進グループ活動報告

グループ事業の取組

産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業では、中部地域23大学と連携して、「アクティブ・ラーニングを活用した教育力強化」と「地域・産業界との連携力強化」が行える教育プログラムを形成することになっている。連携事業推進グループは、このような実施事業の成果と失敗の公表と他大学との連携を図り、本学における教育体制の整備を進める。また、学生の社会人基礎力の評価方法と教育への展開方法を検討し実施する。さらに、社会人基礎力養成プログラムの実施成果を他の授業に展開して、学生に早期の意識付けや態度・志向の養成を進める。

活動成果

平成24年度は、連携事業推進グループの補助事業全体における役割を明確化した。その役割に基づいて、学内の成果および失敗を取りまとめ連携大学に報告するとともに、他大学の状況の報告を受けて学内事業の考察を進めた。連携FDや中部圏産業界ニーズ把握会議に高い割合で専任教員が参加して、事業目的やその実施意義や方法についての認識を深めた。また、他科目への展開方法や社会人基礎力の評価方法の検討を行った。平成25年度は、教育力向上研修会や教育効果測定・指導方法WGを開催し教育指導方法などの探求を行うなど教育体制整備を行い教育効果向上を図った。これらの整備した教育体制に関する実績を平成24年度につづき、大学教育改革フォーラムin東海2014で発表報告した。

今後の課題点

平成24年度および平成25年度で、補助事業で目標としている学生の就業力、特に社会人基礎力を養成する教育体制整備並びに産業界ニーズ把握の体制・制度の整理を行った。具体的には、上記に記載した内容である。これら検討した体制で、平成26年度は1年を通じた教育プログラムを運営し、教育体制や制度の評価を行う。



東海Aチーム連携FD合宿(2013/08/26-27)



第2回教育力向上研修会(2013/10/28)

3 教育体制・産業界ニーズ把握体制の後方支援

1 ユビキタスキャンパスグループ活動報告

グループ事業の取組

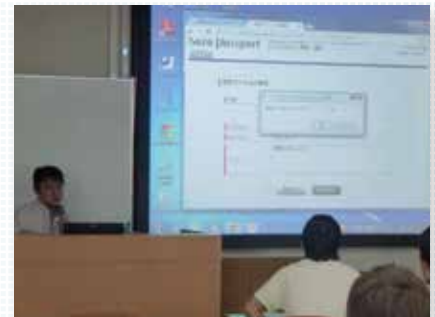
本グループでは、ICT環境の整備やICT活用推進を中心とした活動を行っている。今年度は、新入生へのiPadを貸与と導入支援(写真上)、スチューデントプロフィールシステム(Sozo Passport)・プロジェクトマネジメントシステムの開発・改修の支援、eラーニングシステム(Handbook、Sozo Platz)の利用促進や改修、本事業Webサイトの改修と充実化、等に取り組んだ。9月にはSozo Passportの運用を開始し、利用者への説明を行った(写真下)。

活動成果

Sozo Passportの機能の一つである「課題管理」は学部・短大あわせて26科目(課題数69)で利用され、積極的に教員・学生に活用される結果となった。eラーニングシステム(Handbook)の利用も進み、教育用電子コンテンツも充実した。Webサイトの改修および記事掲載フローを整理した結果、掲載数が大幅に増加した。サイトアクセス数も増大し、本学の取り組みを産業界・教育界に周知させるひとつのツールとして有効に利用することができた。



iPad配布・説明会



Sozo Passport利用説明会

今後の課題点

関係事業グループと連携してSozo Passportに関する未作業分について開発・実装を行い、本学の教育・取り組みに特化したスチューデントプロフィールシステムの完成を目指す。同時に、教職員および学生向けに利用方法の周知・理解を図り、活用を促進させる。また、Sozo Passportをはじめ本グループで管理支援している各システムについて随時利用者から意見を収集して機能改善を行い、より教育活動に有益なシステムに進化させる。

2 大学コミュニティグループ活動報告

グループ事業の取組

大学コミュニティグループ活動は、当事業対象外で、本学独自で行っている活動である。目的は「教育体制・産業界ニーズ把握体制の後方支援としている。

平成25年度は大学と短大が連携した形で以下の活動を行った。

卒業生就業状況調査・卒業生就職先への企業訪問、求人開拓・創造祭同窓会卒業生へのアンケート調査を実施・学内企業説明会人事担当者アンケート2回・短大OG交流実施(先輩の就職体験報告会にOG参加)

活動成果

卒業生就業状況調査を行い[2011年卒業生の離職率]大学19%・短大22.5% [離職理由上位](大学)長時間労働・適性に疑問を持った・給与水準が低かった(短大)人間関係が悪かった・長時間労働・適性に疑問を持ったという結果であった。

企業訪問55社(学部15社・短大40社)、卒業生アンケート(同窓会総会29名・創造祭ブース18名)、企業人事担当者アンケートを行い人材ニーズ情報や授業ガイダンスへの講演協力承認者13名を得ることができた。

今後の課題点

同窓会、キャリアセンターとの連携により、次年度もアンケート集計や企業訪問で積極的な情報収集を行い、結果を分析して教育改善を行うため学部、短大にフィードバックしていきたい。特に産業界ニーズを把握するための課題としては、範囲が限定されている点もあるため、三遠南信地域産学官人財育成ワーキング等へも活動参加も検討してゆく。

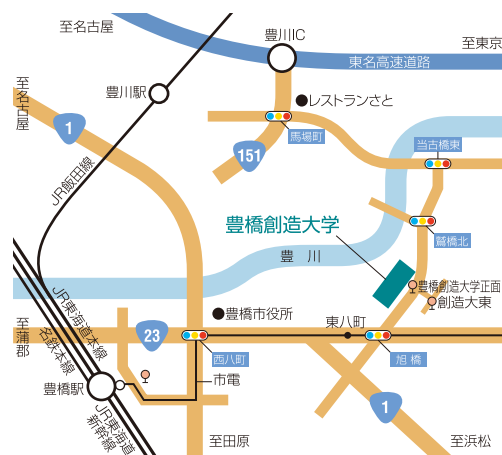




sozo 豊橋創造大学

●情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 ●経営学部 経営学科

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1
 地域産業界連携教育力改革プロジェクト委員会（渉外部キャリアセンター内）
 TEL.050-2107-2104(直通) FAX.050-2107-2112(直通)
 インターネット [URL] <http://www.sozo.ac.jp/> [E-mail] gp4@ml.sozo.ac.jp



- 豊鉄バス** 豊橋駅⑤番のりばより乗車「豊橋創造大学正門」停または「創造大東」停車すぐ(バス乗車時間約15分)
- 路面電車** 「東八町」電停より徒歩約15分
- お車** 豊川インターチェンジより約20分(来客用駐車場完備)